

PAI 原子力産業セミナー2019 開催報告

2018年4月18日
 (一社)日本原子力産業協会

原産協会は関西原子力懇談会との共催により、原子力産業界の人材確保支援と、学生の原子力産業への理解促進のため、合同企業説明会「PAI 原子力産業セミナー2019」を、3月3日に東京・秋葉原、3月7日に大阪・梅田で開催した。今回、東京と大阪会場に会場した学生は383人(東京259人、大阪124人)で、昨年より59人減(-13%)となった。一方、出展企業・機関数は東京・大阪合わせて72社(前年度比+13社)で、過去最多となり、原子力産業界の人材採用への強いニーズが伺える。

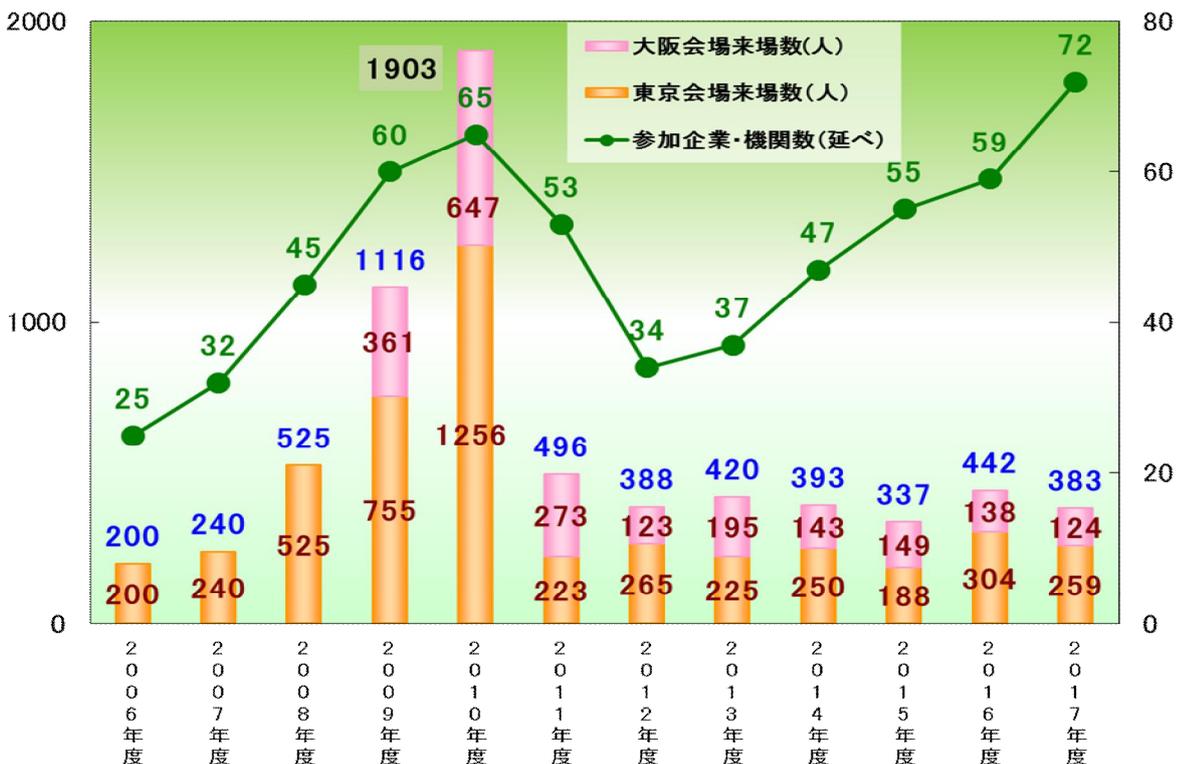
来場学生数は、2006年度の開始(来場数200名)以降、認知度の定着とともに2008年度にかけて増加(同525名)、その後、原子力の海外展開などの「原子力カルネサンス」に注目が集まったことなどから、2010年度にかけて大幅増加したと考えられる(同1,903名)。2011年3月の事故以降は来場学生数が大幅に減り、300~400名程度を推移している。

1. 概要

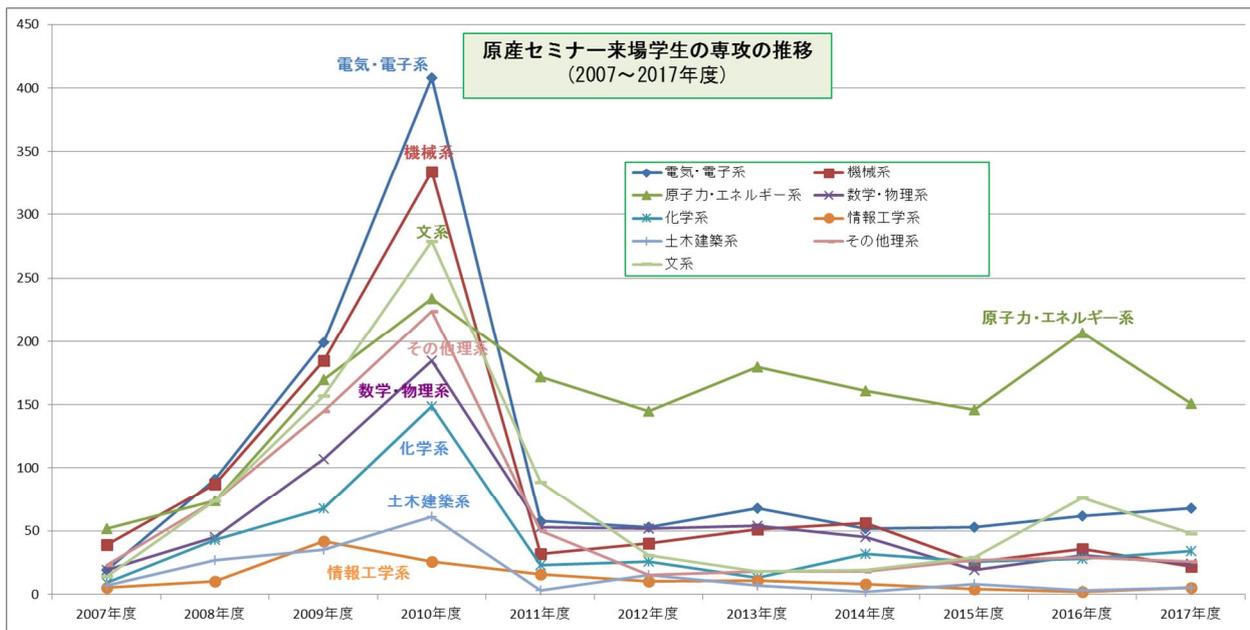
() 内の数字は昨年度

	東京会場	大阪会場	
開催日	2018年3月3日(土)	2018年3月7日(水)	
開催場所	秋葉原UDXビル AKIBA SQUARE	梅田スカイビル アウラホール	合計
来場学生数	259人(304人)	124人(138人)	383人(442人)
参加企業・機関数	41社(36社)	31社(23社)	72社(59社)

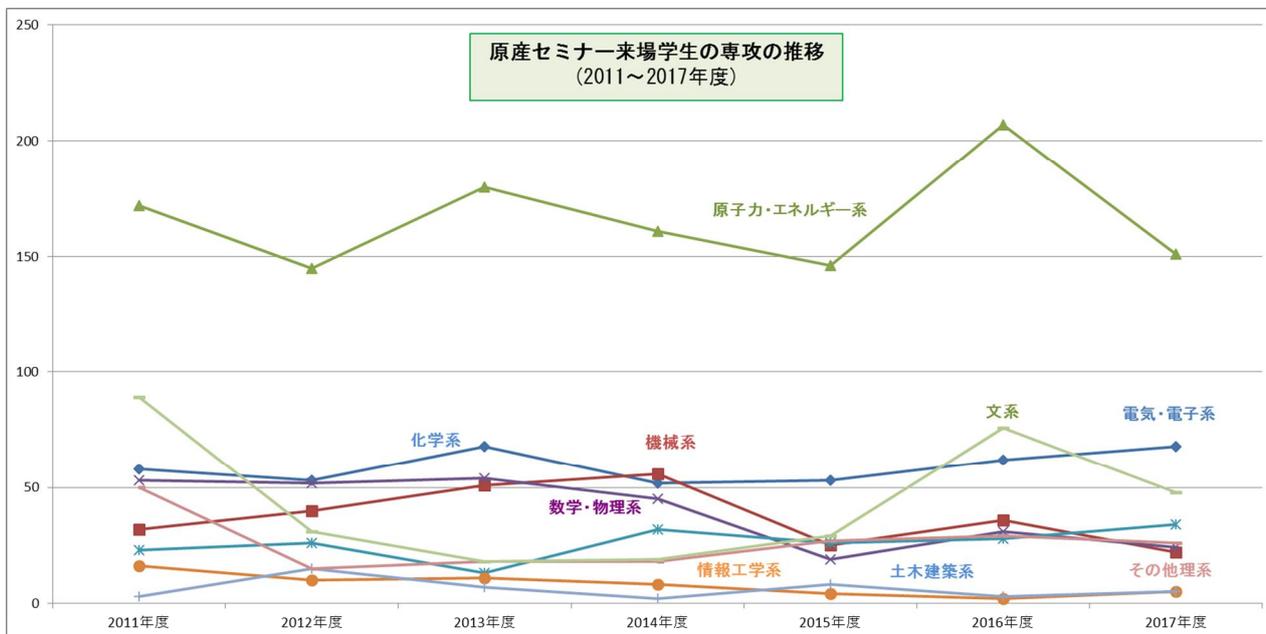
原子力産業セミナーの来場学生数及び参加企業・機関数の推移



2. 来場学生の学科別人数の経年変化（東京会場+大阪会場）



来場学生の学科・専攻別では、多い順に①原子力・エネルギー系 151 人 (39%) ②電気・電子系 68 人 (18%) ③文系 48 人 (13%) ④化学系 34 人 (9%)、⑤その他理系 26 人 (7%) ⑥数学・物理系 24 人 (6%) ⑦機械系 22 人 (6%) ⑧情報工学系 5 人 (1%) ⑨土建系 5 人 (1%) となっている。大学の学科大括り化のため、一部の大学の電気電子系には、原子力専攻の学生が含まれている (10 名程度)。

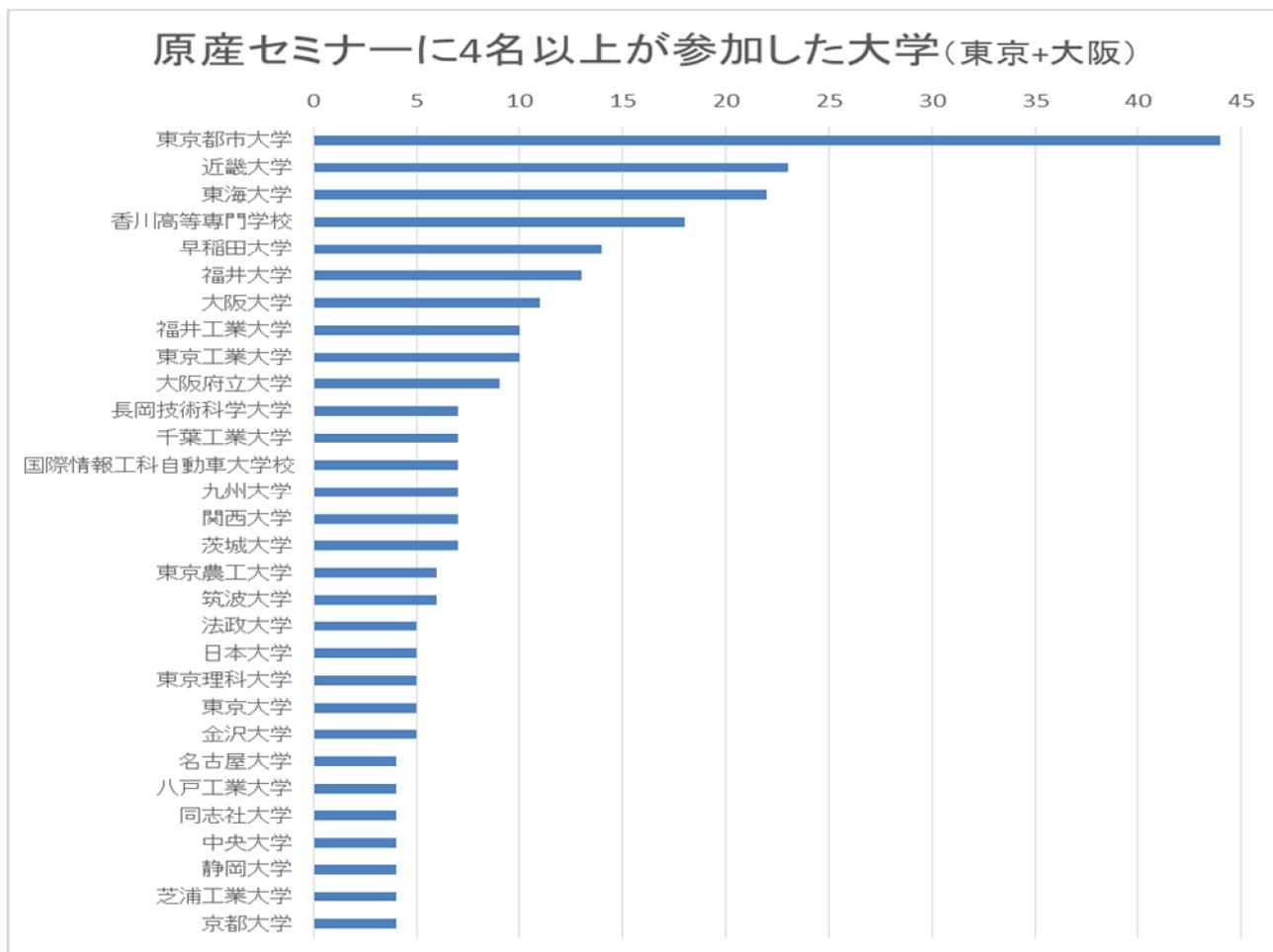


3. 参加企業・機関一覧 (* : 初参加5社)

出展企業	東京	大阪
電力関連企業		
1 北海道電力(株)	○	—
2 東北電力(株)	○	—
3 東京電力ホールディングス(株)	○	○
4 中部電力(株)	○	○
5 北陸電力(株)	○	○
6 関西電力(株)	○	○
7 中国電力(株)	—	○
8 四国電力(株)	—	○
9 九州電力(株)*	○	—
10 日本原子力発電(株)	○	○
11 J-POWER(電源開発(株))	○	—
12 日本原燃(株)	○	○
13 東京パワーテクノロジー(株)	○	○
14 東電設計(株)	○	—
15 (株)テプコシステムズ	○	○
16 原電エンジニアリング(株)	○	○
17 原燃輸送(株)	○	—
重電メーカ		
18 三菱重工業(株)	○	○
19 (株)日立製作所(日立GEニュークリア・エナジー(株))	○	○
20 東芝エネルギーシステムズ(株)	○	○
21 富士電機(株)*	○	—
プラント・エンジニアリング企業等		
22 (株)アトックス	○	○
23 ENERTOPIA JAPAN(株)*	—	○
24 MHIニュークリアシステムズ・ソリューションエンジニアリング(株)	○	○
25 (株)ケーイーシー	○	○
26 原子燃料工業(株)	—	○
27 (株)クリハラント	○	○
28 (株)原子力エンジニアリング	—	○
29 (株)コーガアイソトープ	—	○
30 新日本空調(株)	○	—
31 セイコー・イージーアンドジー(株)*	○	—
32 太平電業(株)	—	○
33 (株)千代田テクノル	○	○
34 (株)東京エネシス	○	—
35 東芝プラントシステム(株)	○	○
36 日本エヌ・ユー・エス(株)	○	—
37 (株)日本環境調査研究所	○	○
38 日本原子力防護システム(株)	○	○
39 (株)NESI*	○	○
40 (株)日立プラントコンストラクション	○	○
41 (株)BWR運転訓練センター	○	—
公益・独立行政・研究法人		
42 (公財)核物質管理センター	○	—
43 (一社)原子力安全推進協会	○	—
44 原子力規制委員会原子力規制庁	○	○
45 原子力人材育成・確保協議会	○	—
46 原子力発電環境整備機構	○	—
47 (一財)電力中央研究所	○	—
48 (国研)日本原子力研究開発機構	○	○
	41	31

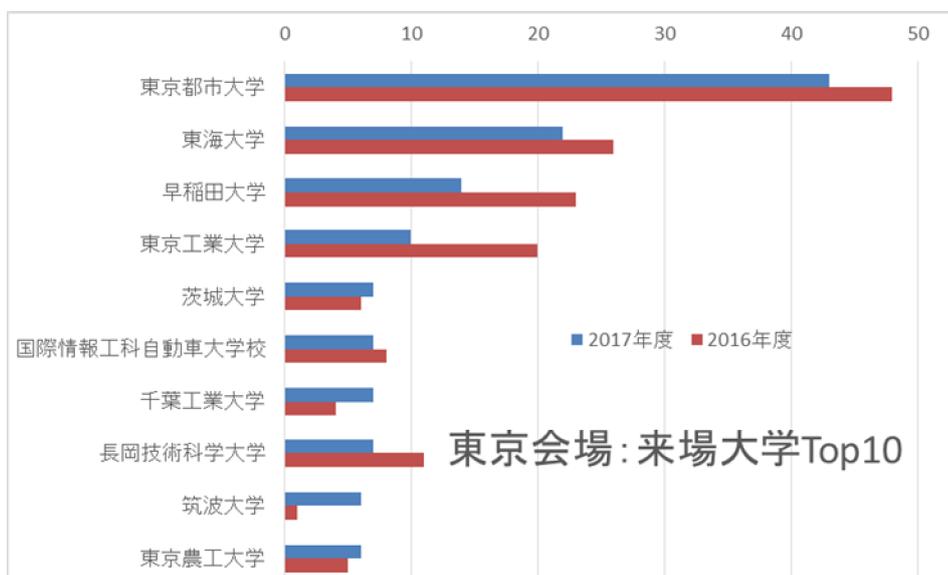
4. 来場学生のデータ（大学名）

今セミナーでは、102校から383人の学生が来場した（昨年度は91校から442人）。東京会場には78校から259人が来場（同68校から304人）、大阪会場には31校から124人が来場した（同37校から138人）。

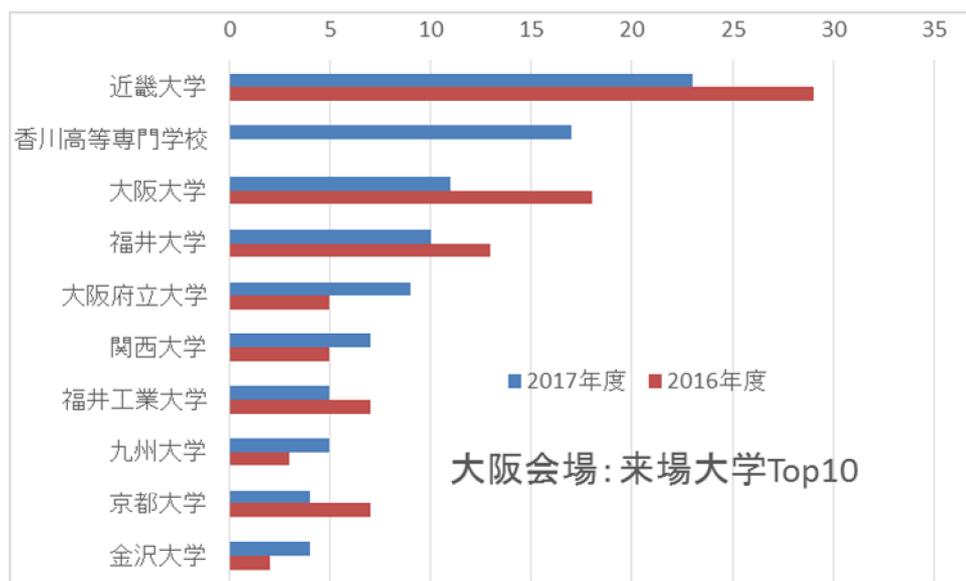


以下のグラフは、東京・大阪会場別の上位10校の来場者数（今年度と昨年度の比較）

○ 東京会場



○ 大阪会場

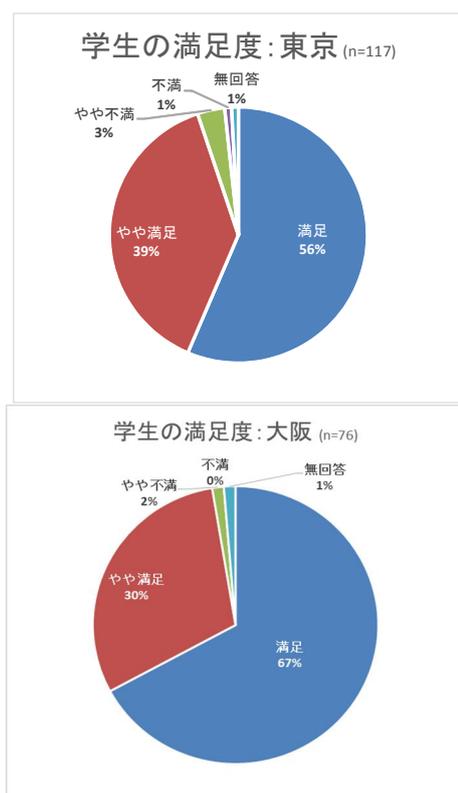


5. 来場学生の来場経緯

全来場者を対象に、原産セミナーを知った経路について尋ねたところ、「先生からの情報」が最多、次いでリクナビの特設サイト、友人・知人、リクナビからのメール、企業からのメール・HP、就職課からの情報となった。

6. 来場学生の満足度と主な感想

東京・大阪会場とも、来場した学生のうち「満足・やや満足」と答えた学生は95%を越え、非常に高い満足度であった。



学生の主な感想

- ・これまで主要電力会社のことしか知らなかったが、その関連企業や子会社にも魅力的な企業が多いことを知ることができた。
- ・原子力発電はマイナスのイメージが強かったが、それを支える人たちの姿が魅力的だった。
- ・あまり気にしていなかった原子力の分野にも自分の活躍できるチャンスがあることが分かった。
- ・原子力の知らなかった事や安全面での具体的な内容まで知る事ができた。
- ・実際の現場で働く方のお話がおもしろかった。
- ・放射線治療関係の企業を増やして欲しい。
- ・化学系のメーカーで、原子力工学や放射線系の分野の学生の採用実績がある会社をもっとあってほしい。
- ・自分の大学でも実施してほしい。
- ・もう少し多く文系採用の会社が欲しい。個別に対応してもらい、文系採用についてしっかりと聞くことができた。
- ・参加学生が少ない分、人事の方と近い距離で話すことができたのが良かった。

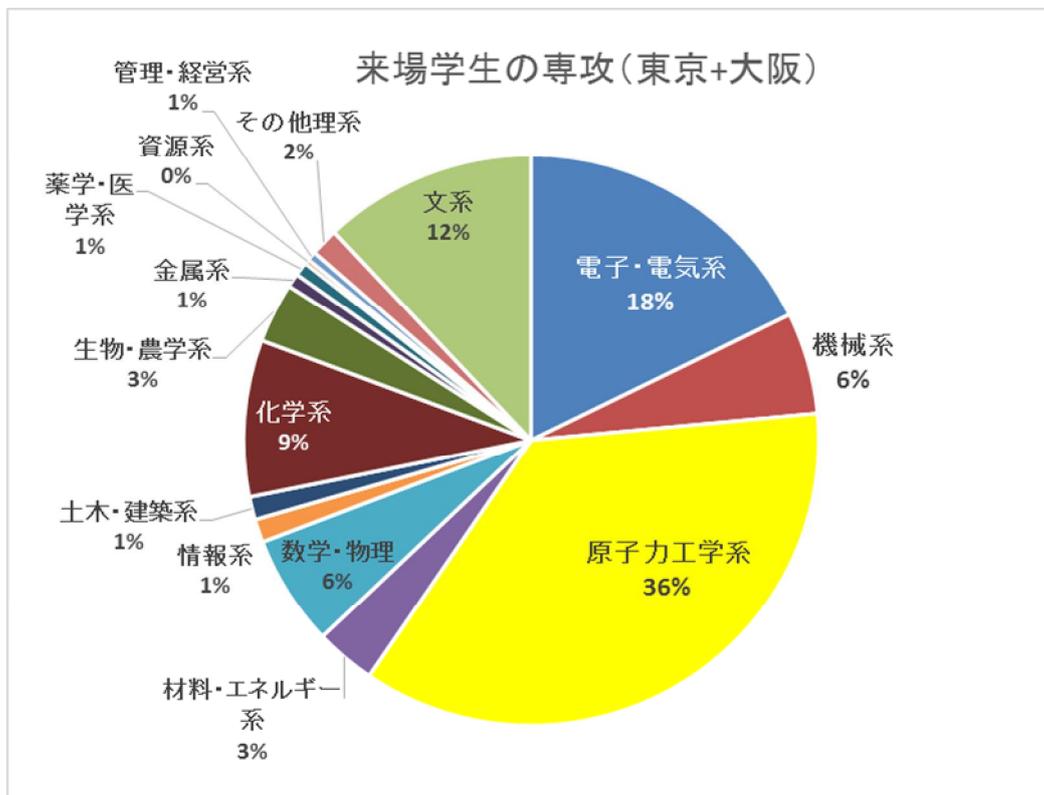
7. 参加企業・団体の主な感想

東京と大阪会場に出展した企業の満足度（東京・大阪合計）は、「期待を上回った」が13%、「期待通り・まあまあ期待通り」が53%、「期待はずれ」が10%（無回答15%）。来場学生数及び1ブースへの平均訪問者数では、東京が大阪の約2倍であることから、東京会場の満足度が大阪会場を上回った。

8. 原子力産業セミナー2019の主な特徴：来場学生のプロフィール

東京・大阪会場に来場した学生のプロフィールは以下の通り。

- ・今年度は会員企業のニーズを踏まえ、理系学生を中心に集客を行ったため、理系・文系比は、東京が理系88%、文系12%、大阪会場は同89%、11%で、昨年度の84%よりも高くなった。
- ・両会場とも女子学生の割合は17%で、昨年度の13%より増加した（昨年度以前は10%以下）。会員企業には理系女子を採用する強いニーズがある。
- ・東京・大阪両会場に来場した学生の専攻の割合は以下の通り。



9. 後援・協賛

以下の通り、17団体・機関からの後援・協賛を頂いた（順不同）。

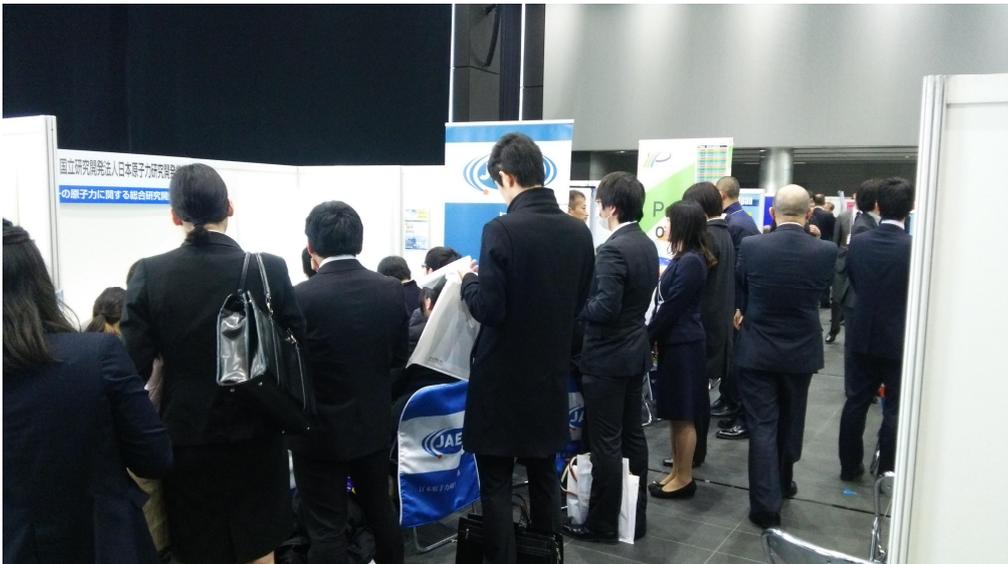
後援：原子力委員会、文部科学省、経済産業省、原子力人材育成ネットワーク

協賛：応用物理学会、国立高等専門学校機構、電気学会、日本化学会、日本核物質管理学会、日本機械学会、日本経済団体連合会、日本原子力学会、日本工学教育協会、日本電気協会、日本電機工業会、日本保健物理学会、プラズマ・核融合学会

10. 写真
＜東京会場＞



会場（ブース）の様子



ブースで説明を聞く学生の皆さん

＜大阪会場＞



会場（ブース）の様子



ブースで説明を聞く学生の皆さん

1 1. マスコミの報道ぶり

- 東京会場ではマスコミ7社が当日取材を行った（NHK、日刊県民福井、朝日新聞、電気新聞、読売新聞、茨城新聞、福島民報）。NHKでは当日（3/3）20：55から首都圏ニュースの中で放送された。福島民報は、4/12に「論説」のなかで言及。茨城新聞は、東海村の原子力人材確保・育成協議会を中心に報道した。
- 大阪会場では、読売テレビ、読売新聞、日刊工業新聞、電気新聞の4社が取材した。読売テレビは当日（3/7）の夜のニュースで放映した。

以上